綱　領

1．吾々は、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2．吾々は、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3．吾々は、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

日赤新労

平成7年3月15日発行　第148号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
（日赤新労）
東京都港区浜松町2-6-8
伸和ビル1F
TEL(03)3433-3028
発行責任者
浜崎健蔵

'95賃上げ　4.5%　14,600円に決定

第34回定期全国大会開催

要求書・闘争方針も可決

二月二十六日より二十八日の三日間、朱色の大鳥居で知られる浜名湖弁天島の素晴らしい自然環境の中、「浜名荘」を会場にして、第三四回定期全国大会が開催された。
全国加盟単組より代議員及びオブザーバー等百名余りが参加し、活発な討議が展開され、新しい本部執行体制のもとに、本年度も要求獲得に向かって力強く前進していくことを確認した。

第34回定期全国大会（2月26日～28日、浜名荘にて）

第一日目は、川島中央副執行委員長の開会宣言の後、日赤新労労働歌が力強く合唱され、資格審査・成立確認を経て大会役員を選出。続いて議長には西村和典氏（大津日赤）、副議長に佐賀克己氏（徳島血セ）、書記に安部祐司氏（愛知血セ）の各氏が選出された。

開会にあたって、梅村中央執行委員長は、「平成六年度ベアは三・五二%と前年に引き続き低率で、期末手当も〇・一カ月分のダウンとなり、かなり厳しい結果となった。こうした中、介護休暇制度の新設にあたっては生活関連手当の支給を強く要求し、永年勤続本社表彰者への特別有給休暇の付与、また週休二日制の実施にかかる諸規則の改正においても、それぞれ成果を得ることができた。景気は緩やかな回復基調にあるとされているものの、春闘においてはさらに厳しい状況が予想される。今大会において、皆さんには慎重にかつ活発な審議をお願いしたい。」と挨拶を述べた。

次いで、全国各単組から寄せられた祝電が披露され、報告事項へと議事は進められた。

第二日目は、審議事項として平成七年度運動方針、予算、要求書等が審議され、活発な意見交換が展開された。昨年来継続審議されてきた専従役員については、同検討委員会提出の答申は承認されなかったものの、他については一部修正の上、賛成多数で承認、決定された。

尚、二日目の懇親会においては、浜松日赤から住山正男院長にご臨席いただき、祝辞を頂戴した。この中で、住山院長は、「病院経営は非常に厳しい状態にあり、労使一体となって努力しなければならない。また、この現状を広く社会に訴え、制度の改正などを要求していかなければならないと思う」と述べられた。

大会最終日には、平成七年度本部役員の選挙が行われ、鳥取日赤の小椋淑恵氏の『浜名大会宣言』が採択された。引き続き今大会を機に本部役員を退任される山田徳子氏、秋葉俊之氏の挨拶があり、梅村中央執行委員長の平成七年度に向けての抱負と力強い挨拶の後、出席者全員で労働歌「頑張ろう」の合唱と万歳三唱が行われ、新労の今後の発展を祈念して大会を無事終了した。

■報告事項■

一、各部報告及び各部会報告
組織部、教宣部、調査部、病院、血液センター、婦人部からの報告があり、承認された。

二、一般経過報告及び要求書への本社回答の報告
本部より詳細に報告があり、承認された。

三、会計収支決算報告
平成六年度収支決算報告書通り承認された。

四、会計監査報告
適正に処理されている旨、大里会計監査委員より報告があり承認された。

五、単組活動報告
各単組から提出された活動状況報告の資料をもとに、追加訂正があれば発表するという形式で報告がなされた。
（詳細は、大会で配布された冊子、資料等を参照のこと）

■審議事項■

一、平成七年度運動方針案について
二、三の質疑応答の後、賛成多数で承認決定された。
議案書中、第三回中央委員会に提示した内容との相違箇所については、来年度から説明を加えて提案することになった。

二、平成七年度予算案について
第三回中央委員会では決算見込みで提示した予算だったので、一月決算で確定した繰越金から予算を一部修正した案が提示され、賛成多数で承認された。

三、平成七年度要求書案について
今年度の基本賃金の引き上げは昇込み四・五%、一万四千六百円と決定された。その算定基礎としては、定期昇給分二・四%、生活向上分一・五%、物価上昇分〇・六%で、最低賃金の引き上げについては平成五年度以来改定されていないので、今年度も引き続き十二万八千七百円を要求していくことになった。
また、他の要求項目については本部は、具体的な内容を示しながら要求することとし、定年制の早期確立を達成するために、暫定的な定年年齢を考慮しながら交渉していくこととした。

四、平成七年度闘争方針案について
前年度同様、全国の組合員とその家族の署名運動による本社社長への署名簿提出、文書・腕章・テレホン戦術、ポスター・ビラの配布、施設長並びに支部長交渉による本社への圧力強化、並びに各単組におけるストライキ権確立、本社集会の実施、中労委提訴、実力行使などのあらゆる合法的手段をもって要求貫徹に邁進すること。また、闘争委員を通じて全国ブロックの意見の集約に努め、必要に応じて闘争委員会を開催することで、賛成多数で決定された。

五、専従役員について
佐賀専従役員検討委員（徳島血セ）より、これまでの審議経過が報告され、同委員会より中央執行委員長に提出された答申の取り扱いについて審議した結果、反対多数で答申は廃案となった。

六、その他
(1)組合例規集の追録発行について
三月下旬の本社発行にあわせて、予定している。
(2)宣伝用パンフレットの作成について
現在検討作成中で、近々見積等を提示したい。
(3)兵庫県南部地震への義援金について
日赤新労として予備費から五〇万円を義援金に当て、本社へ寄託する。

七、役員選挙について
平成七年度本部役員について永井役員詮衡委員長（名一日赤）より役員選出の経過が詳細に報告された。本部役員二名の欠員が承認された後、選挙が行われ、出席代議員多数の信任を得て決定された。
また、梅村新中央執行委員長より顧問の委嘱が発表された。
（新役員は裏面に掲載）

大会スローガン

◎実質的賃金を獲得し、ゆとりある生活の実現
◎労働時間短縮と、週休2日制の完全実施
◎教宣活動を強化し、組織の団結を図る
◎福利厚生を充実し、活力ある職場に
◎定年制の早期実現と、老後保障の充実
◎天下り人事を排斥し、内部登用を図る

就任にあたって

中央執行委員長　梅村　正一

第三四回定期全国大会における役員改選で、前年に引き続き中央執行委員長に選出されました。再任にあたって、一言ご挨拶申し上げます。

先般の阪神大震災の被害には大変驚かされました。多くの犠牲者や甚大な被害を蒙った被災地の皆様には、衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げたいと思います。

日赤新労としても、大会決議のもと、一日も早い復興を願って本社に義援金を寄託しました。

さて、平成六年度ベアは、景気が緩やかな回復傾向にあったにもかかわらず、労働者にとっては厳しいものでしたが、今年度も阪神大震災の影響を受け、昨年と同様に厳しい状況が予測されるところです。

日赤新労としては、定期全国大会の決定により四・五%、一万四千六百円を掲げ、本社との交渉に臨むことになりました。

評論家やエコノミスト等の予想では、今年度ベアは三%台前半と見ているようですが、日経連は「賃上げの余地なし」と決定し、相変わらずベア・ゼロ宣言を打ち上げ、労働者側を牽制しています。しかし一方、連合は率での要求を廃止し、一万四千円の賃上げを決定しており、これを率に換算しますと五%に相当しています。

我々新労としては、四現業の交渉経過を踏まえ、今後の交渉にあったていきたいと考えております。

ところで、昨年度は急速な高齢化や女性の職場進出に対応するため、いくつかの福祉関連の法律改正が行われましたが、厚生年金においても、六五歳年金給付時代（平成二十五年から）に突入することになりました。

新労はこれまで、この厚生年金給付時期と睨み合わせて、六五歳定年制の導入を要求してまいりました。しかし、現在の六二歳と六〇歳の二本立て退職勧奨制度は、「平成四年を目途に見直す」とした本社事務改善等推進委員会のガイドラインであり、新労としては、将来は年金の、当面は「六二歳」を目標とした暫定的な定年年齢設定を考慮していかなければならないのではないかと考えています。

日赤における週休二日制は、現在五六%が試行の段階で、すでに本格的な導入の時期に到達していると思われます。四月からは、週休二日制確立のための給与要綱と就業規則準則の一部改正が施行され、これで週休二日制を実施する環境も整えられ、我々としても早急に日赤全施設が実施できるよう努力していかなければならないと考えております。

最後に、今年度も昨年一年間の活動を生かし、組合員の皆さまの要望に応えていけるよう努力してまいりますので、ご支援ご協力のほど宜しくお願いいたします。各単組におかれましても、日赤新労の一員としての自覚をもって、良識ある組合活動を展開されることを期待し、就任のご挨拶とさせていただきます。

第一回中央委員会案内

平成七年五月十四日(日)～十五日(月)
「シティホテルフクイ」
福井市日の出一―一―一七

平成7年度本部役員

中央執行委員長
梅村　正一
（名二日赤）

中央副執行委員長
川島　環
（鳥取日赤）

中央副執行委員長
坂本　樹由
（足利日赤）

中央書記長
濱崎　健藏
（岡山日赤）

中央会計
粕谷　幸司
（愛知血セ）

中央執行委員
原　眞一
（山形血セ）

会計監査委員
樹下　成徳
（大津日赤）

会計監査委員
大里　信幸
（筑前山田日赤）

顧問
青山　圭一
（岡山日赤）

新任のご挨拶

最後に、新役員の皆様と各単組の皆様の今後のご活躍と、日赤新労の益々のご発展をお祈りし、退任の挨拶といたします。

中央執行委員
原　眞一

当単組から出ていた中央執行委員の秋葉が、一身上の都合で三月いっぱいで当センターを退職することになり、組合員一同非常に残念に思っているところです。

第一ブロックの中で、しかも血液センターの中から中央執行委員を選出してほしいということで、ブロック内でもいろいろと検討した結果、やはり当センターより選出せざるを得ない状況でした。

単組で話し合った結果、私が選ばれ、第三四回定期全国大会で中央執行委員に正式に選出されました。

昨年の秋葉の新任挨拶の中にもありましたように、当センターは血液センターの中でも規模も小さく、人員も少ない施設です。私自身、業務課の一員として、移動採血等で外に出歩く業務が多いため、時間的にも余り余裕がないのが現状です。

しかし、血液センターの代表として選ばれた以上は、単組の協力を得ながら、仕事と組合活動を両立し、血液センターは勿論のこと、各々の組合員が少しでも働きやすい環境で仕事ができるよう努力していく所存であります。

各単組組合員の方々のご指導とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

前中央副執行委員長
山田　徳子

第三四回定期全国大会をもって、中央役員を退任いたしました。

役員としてディスカッションをしている中で、他人任せではなく、自分で考えて行動する、正義のために怒りを持てる自分に気づき、これからは単組に戻り、単組から中央に参加したいというのが主旨でございます。

この三年間、私が皆様にどのようにかかわり合ってきたか、今考えますと、何もしていなかったように思えます。二年間の副執行委員長も名ばかりで、不発に終わってしまい、恥ずかしい次第です。

しかし、三年間本部役員として経験した事、皆様から教えられた多くの事を自分の糧として、若い組合員の人達に役立つよう伝えていきたいと考えております。

今後は、単組での仕事をしながら余暇を作り、〝美を求める心に老若なし〟と言われるように、私も美に憧れて十年間続けている布の芸術（パッチワーク・キルト）に力を入れて、個展など開けたら…などと、大きな夢をもっております。そして、三年前より始めた筋肉トレーニングも怠ることなく、今年度中に体脂肪一五%を目標に頑張りたいと思っております。

今年の本部役員には女性の参加がないので、今後の婦人部の活動には、私も責任を感じておりますので、何らかの形で単組から支援して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

三年間本当に有難うございました。

前中央会計
小池　且子

第三二回定期全国大会において本部執行部に選任され、三年間本部役員としての任務を果たすことができましたのは、ひとえに執行委員長をはじめ執行部、事務局及び全国各単組の皆様のご支援とご協力によるものと、深く感謝いたしております。

全国のたくさんの組合員の皆様と出会うことができ、また出会いの中で、数多くの貴重な経験をさせていただきましたことは、私の人生の中でとても有意義なこととなりました。これからも、このような出会いを大切にしていきたいと思っております。

阪神大震災の被災者へ義援金を寄付

去る一月十七日早朝に近畿地方を襲った兵庫県南部地震は、兵庫県を中心に甚大な被害をもたらしました。

犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されたすべての方々に心からお見舞い申し上げるものです。

この地震によって家を失い、暖房も水もない不便な避難生活を余儀なくされている被災者の方々に対し、一日も早く安心した日常生活が送れるようにと、全国で善意の義援募金活動が展開されています。

日赤新労も、第三四回定期全国大会の決定に基づき、三月六日(月)、梅村執行委員長と坂本副執行委員長が本社に出向き、人事部を通して義援金五〇万円を寄託しました。

日赤本社によると、三月三日（金）までに日本赤十字社に寄託された義援金は、約二四一万五千件、七五〇億九千万円となっており、これら義援金は兵庫県、大阪府、神戸市、日本赤十字社兵庫県支部、兵庫県共同募金会、NHK神戸放送局などで構成する「兵庫県南部地震災害義援金募集委員会」を通じて、被災者に配分されることになります。

義援金を日赤本社へ寄託（左から、小形組織推進部長、上沢人事部長、梅村執行委員長、坂本副執行委員長）

筋力トレーニングによる健康講座

福島日赤「アイアンクラブ」

筋力トレーニングの効果について ―糖尿病編―

一般に、無酵素運動と考えられている筋力トレーニングは、脂質代謝や糖代謝には好影響を及ぼすことがなく、糖尿病の運動療法としては取り入れられていないことが多いようです。しかし最近では、インシュリン感受性を改善したり、安静時の血圧を下げるなどの心血管系の危険因子を減少させるという報告がみられます。

我々が食事を摂ると、腸管から吸収された糖分が血中に移動し、血糖値の上昇がみられます。ここで健常人では、膵臓から分泌されるインシュリンにより身体の細胞に速やかに糖分（グルコース）が取り込まれ、エネルギー源として燃焼されます。しかし、糖尿病患者さんのほとんどは、図1のように脳、腹部臓器、脂肪組織などで取り込まれる糖の量は健常人とほとんど変わらないものの、筋肉での糖の取り込みが顕著に減少していることがわかります。

すなわち、血中の糖分を最も利用してくれるのは筋肉ということです。運動することによって、筋肉での糖の利用を促進させることができるのです。歩行運動などの有酸素運動は、筋肉量を増やすことはありませんが、筋肉を調整し活性化することで糖の取り込みを増やすことができます。

もっと積極的に筋肉量そのものを増やすための運動が、ウエイトトレーニングです。筋肉の収縮そのものが、インシュリン様の作用を持つという報告も認められています。

具体的な運動のメニューは、スクワット、ベンチプレス、ベントダンベルロウの三種目で、これらはそれぞれ大腿部、胸部、背中を鍛えるものです。一セット一〇～二〇回とし、三カ所の筋肉を休息をおかずにトレーニングして一～二分休憩し、再び三種目を繰り返してトータル三回行います。これらは慣れれば二〇～三〇分で終了しますが、週三回行います。

このプログラムでトレーニングを行った一四名のデータを表に示しました。約四～八週間のトレーニングで、血糖値が劇的に改善していることがわかります。もちろん、ここに示した症例は、経口糖尿病薬やインシュリンを使用しておりません。

―つづく―

血中インシュリン濃度を100μU/mlにセットした正常血糖クランプ時の健常人とNIDDM例のブドウ糖取り込み率

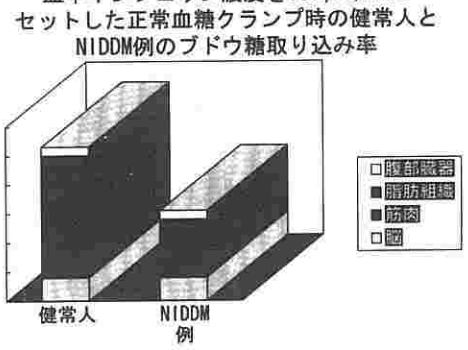

図1

肥満を伴う糖尿病患者に対する4～8週間の筋力トレーニングの効果

	年齢	性	身長	体重		BMI		空腹時血糖		体脂肪率		基礎代謝率		総コレステロール		中性脂肪	
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1	37	♀	165	65	59	24	22	137	104	27	26.2	-4.7	1.1	224	165	148	121
2	43	♀	152	72	64	31	28	273	105	33.6	31.1	-23.3	-30.8	189	151	117	41
3	59	♀	151	51	46	22	20	449	108	29.2	21	未測定	未測定	268	192	71	63
4	48	♀	155	68	59	28	24	172	89	29	27.5	-1.9	1.4	未測定	220	未測定	42
5	66	♂	172	65	63	22	21	147	121	19.3	18.9	3.9	10.6	165	180	214	65
6	24	♀	163	74	71	28	27	220	85	29.4	26.5	-17.4	-15.4	338	160	323	134
7	33	♂	184	60	60	18	18	241	143	14.7	11.2	10.2	3.8	159	147	55	64
8	23	♂	175	50	52	16	17	243	118	7.1	8.9	-8.7	-24.2	163	149	61	62
9	51	♂	169	55	53	19	18	253	150	15.5	17.5	-1.3	2.8	197	166	80	122
10	71	♂	161	61	58	23	22	193	136	21.7	22	-0.7	-6	188	153	83	91
11	59	♀	157	63	62	26	25	162	128	30.8	30.4	3.3	-5.5	208	189	155	80
12	42	♂	170	78	71	27	25	96	89	21.3	18.6	-50	-13	227	202	128	103

第34回定期全国大会 浜名大会宣言

遠州随一の名勝の地として名高い浜名湖弁天島「浜名荘」で、第三四回定期全国大会を開催した。

我々は、平成七年度運動方針として、「実質的賃金を獲得し、ゆとりある生活の実現」「労働時間短縮と週休二日制の完全実施」「教宣活動を強化し、組織の団結を図る」「福利厚生を充実し、活力ある職場に」「定年制の早期実現と、老後保障の充実」「天下り人事を排斥し、内部登用を図る」以上、六項目のスローガンを掲げ、日赤新労の理念を基調とし、全組合員の協力のもと、ゆるぎない意志と団結に努め、要求貫徹に向かって力強く前進することを誓います。

右、浜名大会宣言とする。

平成七年二月二十八日

鳥取赤十字病院職員組合
小椋淑恵

大会宣言を朗読する小椋淑恵さん

組合員のみなさんへ

○新労本部に「組合への質問」「労働条項」「賃金」ほか意見や質問がありましたらお寄せ下さい。組合員であれば、個人名で構いません。宛て先は本紙発行日一面の右上に記載しています。